

2025年度 一般選抜

国 語

〈全学部全学科共通問題〉

2月23日実施 C日程

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題の冊子を開かないでください。
2. 本冊子には、12ページの問題文があります。
3. 解答用紙は、すべてマーク・シートになっています。
4. 監督者の指示で、受験番号欄に受験票に記載されている受験番号（数字6桁）を縦に記入し、それぞれ右のマーク欄にマークしてください。受験番号が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。氏名欄に氏名も忘れず記入してください。
5. 解答科目欄には、解答する科目を1つ選び、マークしてください。
6. 解答は、設問の箇所に指示されている解答番号の解答欄にマークしてください。例えば、と指示されている設問に対して、③と解答する場合は、次の例のように解答番号20の解答欄の③にマークしてください。

(例)

解答番号	解 答 欄									
20	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

7. 解答番号は～です。～の解答欄には何も記入しないでください。
8. マークは、硬度HB以上の鉛筆を使用し、訂正する場合は消しゴムでていねいに消し、消しくずを残さないように注意してください。
9. 解答時間は、60分です。

問題 1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

1923年(大正12年)、関東大震災が日本を襲った。

それは出版業界にも、当時広がりつつあった民衆の読書文化にも、大打撃を与えた。火災によって書籍も、書籍になる前の紙も、たくさん燃えた。書籍の値段も上がる。これ以上単価が高くなってしまつては、せつかく本を読もうとしていた民衆が、本に手を出せなくなる。そして不況によって雑誌の売れ行きも落ち込んだ。

大正末期——出版界はどん底にあった。

そんな出版界に革命を起こしたのが「円本」だった。それは、トウサン寸前だった改造社の社長がイチかバチかの賭けに出た結果だった。1926年(大正15年)12月、つまり大正の終わり、昭和になるとともに突風のようにはじまった「円本」ブームは、日本の読書を変えたのだった。

この「円本」とは何だったのだろうか？ 要は「全集」のことだが、会社で働くサラリーマンたちが、せつせとこの「円本」を集めていたようなのだ。なぜ彼らは円本を集めていたのだろうか？

円本という言葉の由来は、1冊1円というその価格による。

円本を日本ではじめて売った、改造社の『現代日本文学全集』——それは当時の日本の作家たちの「これを読んどきや間違いない」という作品集だった——はまず全巻一括予約制をとった。つまり「予約した人しか買えない」うえに、「A」ことができない「全巻を買うことが必須」という形態。消費者の身になると、全巻予約必須とはなかなか思い切ったシステムだと感じるのではないだろうか？ 現代でも、読んだことのない名作漫画全集を全巻予約必須と言われたら躊躇^{ためら}ってしまう。

しかし出版社側には、この「全巻予約必須」システムに踏み切るだけの理由があった。1冊1円、という価格設定は、当時においてハカク^bの金額だったのだ。

当時、書籍の単行本は2円〜2円50銭がソウバ^cだった。しかも『現代日本文

学全集』には、通常の単行本の4、5冊分の量が収録されている（現代の文庫本でいうと、約5冊分の文字数だ）。つまりは10分の1ほどの値段だった。安い。

出版社側はその安さを、初版部数の多さで補うという大博打を自論^{はくちもくろ}んだ。そしてその博打は大勝利に終わる。予約読者は23万人を超えた。結果的に募集を繰り返して、40、50万の予約に至ったという。改造社は当初全37巻、別冊1巻だった出版計画を変更する。結果的には全62巻、別冊1巻に及び、6年以上かかって刊行は完了した。

そしてこの「円本」システム、つまりは全集をまとめて安く売ることの大成功っぷりに驚いたほかの出版社も、さまざまな円本全集を刊行した。それは当時の「現代日本作家」の作品にとどまらず、海外文学篇や思想篇に至るまで、多様なジャンルの全集ブームとなっていた。

戦前は、本が安くなって、みんな本を読むようになった時代だった。そこにはこの円本という仕掛けがあった。

そして戦前のサラリーマンたちは円本を購入していたのだ。サラリーマンが本を買う文化も、円本全集の登場を契機に、本格的にこの時代からはじまるのだった。【 1 】

なぜこの「円本」は売れたのだろうか？ 値段が安くなったからといって、皆が突然、本を買うようになるだろうか？ そこまで豊かではない家計と忙しいはずの時間のなかで、どこに『現代日本文学全集』を買うモチベーションがあったのだろうか？

本章はこの昭和初期の円本ブームと、戦前のサラリーマンの読書の風景に迫ってみたい。

- 一、本全集あれば、他の文芸書の必要なし。
- 二、総額壹千円のもので毎月たった一円。
- 三、内容充実し、普通版の四万頁に相当す。
- 四、明治大正の不朽の名作^{ことう}悉く集まる。
- 五、菊判六号活字総振仮名付最新式の編輯法。

- 六、瀟洒な新式の装幀で書齋の一美観。
- 七、全日本の出版界は其の安価に眼を円くす。
- 八、本全集あれば一生進d|タイクツしない。

これが『現代日本文学全集』の内容見本に挙げられた、八つの特色だった。注目したいのが、「瀟洒な新式の装幀で書齋の一美観」つまり「書齋」に置く本として美しいインテリアであることを強調している点だ。

塩原曲紀は、2002年（平成14年）の論文「所蔵される書物―円本ブームと教養主義」で、昭和初期の中流階級の間で増えていた和洋折衷住宅において、洋式の「書齋」の部屋が誕生し、B その「書齋」は「応接間」の役割も兼ね備えていたことを指摘する。つまり家に客人が来たときに、書齋の本棚を見せるような設計になっていた。そして当時の本棚にぴったりだったのが、円本全集だったのだ。

実際改造社の『現代日本文学全集』の装幀を担当した杉浦非水は、「C」としての書物というコンセプトを提示した。たしかに単行本をそれぞれ買って並べるよりも、統一された全集の背表紙のほうが、インテリアとして映える。円本全集は当時増えていた洋式の部屋にインテリアとして重宝された。

ちなみに当時本をインテリアとして買うことを、^ゆ挪^ゆする人もいた。1928年（昭和3年）の『出版年鑑』で評論家の武藤直治は「現在は、いわゆる円本が読まれるよりは飾られ、貯えられるために出版され、購求されている観がある」と述べる。つまり「円本は読まれてない、飾られているだけだ」ということだ。

昭和初期、本を読んでいることは、教育を受け学歴がある、すなわち社会的階層が高いことの象徴だった。中高等教育を受けた学歴エリート階層＝新中間層が、労働者階級との差異化のために「教養としての読書」を重視していたことは、第二章に見た大正時代から続く傾向である。そう、ずらりと本棚に並べられる円本全集を購入することは、「D」をするための最適な手段だったのだろう。

読書することで自分の階層を「労働者階級とは違ふんだ」と誇示したい新中間

層＝当時のサラリーマン——それはまさに円本全集のターゲット層だった。

たとえば新潮社が出した『世界文学全集』の新聞広告には、こんな宣伝文句が掲載されている。

丸ビルだけでも一万幾千からの勤め人が居られますがその方々の悉くが私共書店として一番の得意である読書階級でありますので、お昼の時間など実物見本の引っ張り合です。

(「東京朝日新聞」1927年2月10日に掲載された『世界文学全集』の広告における書店員の言葉)

書店員の言葉を載せる新聞広告の手法は今も昔も変わらないのだな、と微笑ましくなってしまうが。それはそうとして、この書店員が述べている「読書階級」という言葉に着目したい。【Ⅱ】

丸の内のオフィス街で、お昼の時間に書店に寄るようなサラリーマン——つまり労働者階級ではない新中間層にこそ、全集を買ってほしい、そのような出版社の狙いが見て取れる。出版社としても、「新しく家を持つような少しお金を持ったサラリーマンが書齋に置いて自慢する材料」としての円本全集を企図していたのだ。

そしてそれは当時の日本に登場したサラリーマン層の需要とぴったり噛み合っていた。自分は労働者階級ではない、自分はちゃんとした家のちゃんとした主人なんだ、と誇示したい当時のサラリーマン層にとって円本全集は打ってつけのインテリアであった。

時代の風と、的確な企画意図。その組み合わせの妙によって、円本全集はサラリーマンの家のインテリアとしてクンリン^eすることに成功したのだ。

永嶺重敏は「モダン都市の〈読書階級〉」で、労働者や農民に比べ、新中間層は恵まれた給与水準であった——それが彼らを「読書階級」に押し上げた一因であると述べている。

だが、冷静に考えて、いくらサラリーマンが安定した給料をもらっていても、書籍に無限の金額をつぎ込めるわけではない。

戦前の給与制度について詳しい岩瀬彰は『「月給100円サラリーマン」の時代―戦前日本の〈普通〉の生活』で、戦前サラリーマンの給料の目安を「月給100円」だったと解説する。ビール大瓶は35銭、総合雑誌は50銭だった時代のことだ。だとすれば円本全集の1冊1円は、現代でいえば1冊2000円ほどである。今のハードカバー単行本1冊よりも少し高い。もちろん円本登場以前の文学書の高さから比べるとハカクであろうが……それにしたってサラリーマンのファッションアイテムとしてバカ売れするほど安くないんじゃないか、という気にもなる。【 III 】

なぜ当時のサラリーマンは1冊1円（＝現代の2000円）の円本全集を買おうと思ったのだろうか？

これについては、円本全集が現代の〈サブスク（サブスクリプション）〉と同じシステム―つまり月額払いだったことが大きなカギだった（谷原史^{つぎ}『「サラリーマン」のメディア史』）。

日給制の労働者とは異なり、当時のサラリーマンは（今もそうだが）月給制だった。

そう、円本は、月々に料金を支払うシステム。つまり月給制のサラリーマンにとって、単発でそれぞれ料金を払う単行本よりも、逆に給料日とともに「毎月いくら」という形で支払う円本のほうが、財布の E。月給制と月額払いは相性がいい。それは現代においてもやはりほとんどのサブスクの支払いが月額であることを考えると、納得できるだろう。【 IV 】

ちなみに、同じく月額で定期的に支払うメディアといえば、当時は雑誌があった。だが当時、1925年（大正14年）に創刊された雑誌「キング」の流行などもあり、雑誌というものはかなり「誰でも読める読み物」というイメージがついていた。その点、円本全集は見た目も内容も、「教養のある家庭の人間だけが読める読み物」というブランディングがしっかりとされていた。

月額払い、つまり給料が入ってくるタイミングで支払うことのできる円本全集

は、まさに出版社がターゲットとするサラリーマン層の懐事情を考慮したシステムだった。
(三宅香帆『なぜ働いていると本が読めなくなるのか』)

問一 傍線部 a ～ e に相当する漢字を含むものを、次の①～④の中からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

a トウサン (1ページ本文8行目)

- 1
- ① この都市にはこれといったサンギョウがない。
 - ② Jリーグへのサンニユウを目指したい。
 - ③ 昨年度のケツサンは好調で、株価も上がった。
 - ④ キャンプ場には、空き缶がサンランしていた。

b ハカク (1ページ本文25行目)

- 2
- ① このチームには選手間のハバツ争いがある。
 - ② 映画のハキユウ効果で観光客が増えている。
 - ③ 京都市内のパン屋をすべてセイハしたい。
 - ④ 現状をタハするためには努力が必要である。

c ソウバ (1ページ本文26行目)

- 3
- ① 通っている大学がソウリツ一〇〇周年を迎えた。
 - ② 依頼するからには、ソウオウの対価を支払いたい。
 - ③ あ的那个人はソウジユクな天才だった。
 - ④ 荷物のユソウにかかる費用を抑えたい。

d タイクツ (3ページ本文3行目)

- 4
- ① 日本の夏は、もはやオンタイの気候とは言えない。
 - ② 何かを成し遂げるためには、ニンタイも必要である。
 - ③ 渡航先の情勢悪化のため、国からタイと勧告が出された。
 - ④ 公務員へのセツタイは禁止されている。

e クンリン (4ページ本文24行目)

- 5
- ① 緊急事態が発生したため、リンジの会議を開いた。
 - ② この住宅街には商業施設がリンセツしている。

③ 小説には、しばしばリンリ的な問題が描かれている。

④ 踏切内でトラックがダツリンした。

問二 空欄 **A** に入る語句として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

6

① 読みたくない巻だけ売る ② 読まない巻を選ぶ

③ 欲しい巻だけを買う ④ いらぬ巻を人に貸す

問三 傍線部ア「出版社側はその安さを、初版部数の多さで補うという大博打を
目論んだ」とありますが、「その安さを、初版部数の多さで補う」ことが「大
博打」であった理由として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、
番号で答えなさい。

7

① 円本が初版部数を多くした分だけ売れたとしても、読者からよい評
判を得られるかは未知数だったから。

② 円本が初版部数を多くした分だけ売れば、1冊1円という安さで
も採算が取れるはずだが、実際に売れるかどうかはわからなかつた
から。

③ 円本の初版部数を多くしても、通常の単行本より内容が少ないこと
が不満で買わない人が続出するかもしれなかつたから。

④ 円本の初版部数を多くしても、ほかの出版社も円本全集を刊行する
ようになるほど売れるかどうかはわからなかつたから。

問四 空欄 **B** に入る語として最も適切なものを、次の①～④の中から
一つ選び、番号で答えなさい。

8

① さらに ② あるいは ③ だが ④ だから

問五 空欄 **C** に入る語句として最も適切なものを、次の①～④の中
から一つ選び、番号で答えなさい。

9

① 標準規格 ② 現代芸術 ③ 室内装飾 ④ 一般教養

問六 空欄 **D** に入る語句として最も適切なものを、次の①～④の中
から一つ選び、番号で答えなさい。

10

① 本をたくさん買える財力があるふり

- ② インテリアでも教養が高められる素振り
- ③ 俳優顔負けの苦悩する作家の演技
- ④ 実際に読まなくても読書している格好

問七 傍線部イ「時代の風」の説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 11
- ① 新中間層が、自分は労働者階級ではないとアピールするために読書することを重視するようになったということ。
 - ② 新中間層が、労働者階級とは違う生き方を模索していく中で、読書によって人格を高めようとしたということ。
 - ③ 労働者階級の人々が、新中間層への対抗手段として読書をするようになったということ。
 - ④ 新中間層と労働者階級が、階級の差を超えて交流していくための手段として、読書が求められるようになったということ。

問八 空欄 E に入る語句として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 12
- ① 革が伸びる ② 革が縮む
 - ③ ひもが緩む ④ ひもが堅くなる

問九 傍線部ウ「サラリーマン層の懐事情」の説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 13
- ① 給与水準は他の階級に比べて高く、毎月決まった額の給与を受け取っていた。
 - ② 給与水準は他の階級と同等で、一日でまとまった金額を受け取れた反面、月ごとの収入は安定しなかった。
 - ③ 毎月決まった額の給与を受け取っていたが、ボーナスの金額は流動的で、年収は安定しなかった。
 - ④ 日給制だったが、一ヶ月で受け取る金額は決められていたため、事実上月給制と変わりなかった。

問十 この文章のいずれかの段落には、「昭和の戦前にすでにその制度をつくつ

ていたのは驚くが」という一文が入ります。その箇所として最も適切なものを、文中の【Ⅰ】～【Ⅳ】の中から一つ選び、番号で答えなさい。

14 ① 【Ⅰ】 ② 【Ⅱ】 ③ 【Ⅲ】 ④ 【Ⅳ】

問十一 本文の内容と一致するものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 15
- ① 大正末期の関東大震災によって、書籍も書籍になる前の紙も燃えてしまったため、書籍の価格は上がり、民衆は本も雑誌も買いにくくなってしまった。
 - ② 田本とは、元々は統一された背表紙を持つ本の形につくられたインテリアの名称だったが、改造社はその美観を持った本物の本として、全集を一冊一冊で売り出した。
 - ③ 田本全集は現代の〈サブスクリプション〉と同じ月額払いのシステムであったが、そのシステムになったのは、出版社側が毎月決まった額の利益を得られるようになったからである。
 - ④ 書店員の言葉を載せる新聞広告は、大正末期に創刊された雑誌「キング」の宣伝として初めて登場した。この手法は現在でも変わらずに使われている。

問題Ⅱ 次の各問について、その解答を選択肢の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。

問一 次の①～④は身体の一部を表す語が入る慣用句です。空欄に入る語が他と異なるものはどれですか。

- 16
- ① 思い通りにゆかず□を曲げる。
 - ② 彼の傲慢な態度は□に余る。
 - ③ 万引き防止のために、店員が□を光らせている。
 - ④ あまりの惨状に□も当てられない。

問二 次の慣用句の空欄に入る語はどれですか。

- 17
- の角（意味：実際には無いこと）
- ① 兎うさぎ
 - ② 犬
 - ③ 犀さい
 - ④ 龍

問三 次の傍線部のうち、文法的性質が他と異なるものはどれですか。

- 18
- ① 草花が萎しぼれる
 - ② 集合時刻に遅れる
 - ③ 牙を抜かれる
 - ④ 思いがけない幸運に浮うかれる

問四 次の【 】内のようなときに用いる表現として、適切でないものはどれですか。

- 19
- 【取引先から電話があったことを上司に伝えるとき】
- ① A社の斎藤様から、十四時頃にお電話がございました。
 - ② A社の斎藤様から、十四時頃にお電話いたしました。
 - ③ A社の斎藤様から、十四時頃にお電話をいただきました。
 - ④ A社の斎藤様から、十四時頃にお電話でご伝言をお預かりしています。

問五 次の傍線部のうち、現代仮名遣いが適切でないものはどれですか。

- 20
- ① 「加藤です。いま、おねえさん〔お姉さん〕はこ在宅ですか。」

- ② ボールがじめん〔地面〕にめり込んだ。
- ③ 彼の話にあいずち〔相槌〕を打つ。
- ④ 「とうだい〔灯台〕下暗し」というように捜し物は机の上にあった。

問六 次のうち、対義語の組み合わせでないものはどれですか。

- 21
- ① 従順―寛容 ② 進展―停滞
 - ③ 創造―模倣 ④ 老練―幼稚

問七 次の熟語のうち、上と下の漢字が示す意味の関係が他と異なるものはどれですか。

- 22
- ① 幸福 ② 壮大 ③ 断絶 ④ 追跡

問八 次の熟語のうち、一字ともに音読みでないものはどれですか。

- 23
- ① 檢察 ② 形相 ③ 抵抗 ④ 献立

問題Ⅲ 次の各問いについて、その解答を選択肢の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。

問一 平安時代に成立した作品でないものはどれですか。

- 24 ① 古今和歌集 ② 枕草子 ③ 伊勢物語 ④ 雨月物語

問二 軍記物語に分類される作品はどれですか。

- 25 ① 徒然草 ② 平家物語 ③ 方丈記 ④ 古事記伝

問三 次のある作品の冒頭です。その作品はどれですか。

いつれの御時にか、女御・更衣あまたさぶらひけるなかに、いとやむことなき際にはあらぬが、優れてときめきたまふありけり。

- 26 ① 万葉集 ② 奥の細道 ③ 源氏物語 ④ 竹取物語

問四 次の説明に当てはまる作品はどれですか。また、その作者は誰ですか。

「私」は久しぶりに故郷を巡る旅に出て、懐かしい人々と出会う。一番の目的であった乳母をしていた「たけ」との再会も果たす。「たけ」は他人行儀だが、「私」に対する愛情が感じられ、「私」の心は満たされる。作者が公私ともに安定していた時期の作品。

27 作品

- ① 津軽 ② 雪国 ③ 武蔵野 ④ 城の崎にて

28 作者

- ① 川端康成 ② 志賀直哉 ③ 太宰治 ④ 国木田独步

問五 堀辰雄の作品でないものはどれですか。

- 29 ① 田園の憂鬱 ② 聖家族 ③ 美しい村 ④ 風立ちぬ

